

目次

第I篇 労働組合とは何か

—新しく組合員になった若者に—

第1章 労働者文化と労働組合

1. はじめに 11
2. このシリーズの目的 12
3. 労働者文化のこと 13
4. 労務管理とは 15
5. 労働組合は「労働者文化」を守る 16
6. 労働組合の強さの源泉 17
7. まとめ 18

第2章 イギリスの労働組合・アメリカの労働組合

1. 労働者の帰属意識 20
2. イギリスの労働組合 20
3. アメリカの労働組合 28
4. まとめ 32

第3章 産業別組合の思想

1. はじめに 33
2. 産業別主義の時代 33
3. 賃金における「資本の論理」 35
4. 支払い能力論とは 36
5. 電産型賃金の世界 37
6. 労働者のための賃金体系 38
7. 企業別主義への転換 39
8. 連帯は企業の枠を超えて 40
9. まとめ 42

第4章 組合運動の活性化へ向けて

1. はじめに 44
2. 分断統治は「黄金の教訓」 44

3. 平等価値	46
4. 共闘の論理	47
5. 職場の主人公意識	49
6. 労働規律の確立	51
7. まとめ（友愛主義の思想）	52

第Ⅱ篇 少数派労働組合とは何か —その実態と成果・課題—

第1章 少数派組合の現状・課題

1. はじめに	59
2. 少数派組合との出会い	59
3. 少数派組合の5つの課題	61
4. 少数派組合・電産中国に学ぶ	67
5. 少数派組合の意義	73
6. おわりに	77

第2章 少数派労働運動論の構築

1. はじめに	79
2. 少数派組合の重要性	79
3. 少数派組合の実態	81
4. 少数派組合・電産中国の成果	87
5. 反原発闘争で加入者が増加	90
6. 少数派組合の意義	91
7. 少数派組合の課題	94
8. 辺境から活性化の芽が	98
9. 「わが組合」の思想	100
10. おわりに	102

第Ⅲ篇 広電型労働組合主義とは何か

—少数派から多数派へ、そして組織統一—

第1章 少数派から多数派への発展

1. はじめに	107
---------	-----

2. 日本の労働運動と組合分裂	107
3. 概要	111
4. 組織率の変化	120
5. 「後退期」(差別講造)	124
—第1段階(1954年～1959年)—	
6. 「ゼロの闘い」(差別撤廃闘争)	135
—第2段階(1959年～1964年)—	
7. 「攻勢期」(仕事と賃金の規制闘争)	143
—第3段階(1964～1966年)—	
8. 「共闘期」(路面電車を守る闘い)	147
—第4段階(1968年～1978年)—	
9. 広電支部の歴史(小括)	150
10. 多数派としての課題	154
11. おわりに	161

第2章 「全契約社員の正社員化」の実現

—広電型労働組合主義とは何か—

1. はじめに	165
2. 私鉄中国広電支部との出会い	165
3. 「広電現象」(2009年)とは	167
4. 原点(広電支部のDNA)	170
5. 発端(規制緩和、1990年代)	176
6. 変形労働時間制の導入(1993年～1996年7月)	176
7. 太田執行部(第4代、1996年9月～2000年9月)	181
8. 佐古執行部(I)(第5代、2000年9月～2006年)	183
—バス分社化阻止、契約社員制度の導入—	
9. 佐古執行部(II)(2006年～2009年)	187
—全契約社員の正社員化・新賃金制度の創出—	
10. 意義	194
11. その後	198
12. 広電型労働組合主義とは何か(その志)	202
13. おわりに	210

＜卷末資料＞	214
初出一覽	218
著者紹介	220

著者紹介

河西宏祐・文学博士（名古屋大学）

略歴

- 1942年7月 神戸市に生まれる
- 1965年3月 東京教育大学文学部卒業
- 1971年7月 東京教育大学大学院博士課程中途退学
- 1971年8月 東京教育大学文学部助手
- 1974年～98年 千葉大学助教授、教授（名誉教授）
- 1996年4月～8月 ハイデルベルグ大学客員教授
- 1998年4月 早稲田大学教授（人間科学学術院）
- 2013年3月 早稲田大学定年退職
- 2013年4月 早稲田大学名誉教授

著書

- 『全契約社員の正社員化を実現した労働組合』平原社、2015年
- 『ワセダ教育断想』ノンブル社、2013年（非売品）
- 『全契約社員の正社員化—私鉄広電支部・混迷から再生へ（1993年～2009年）』早稲田大学出版部、2011年（新装版、2012年）
- 『電産の興亡（1946年～1956年）』早稲田大学出版部、2007年（第14回社会政策学会賞）
- 『労働社会学入門』（ロス・マオアと共著）（渡辺雅男監訳）早稲田大学出版部、2006年
- 『インタビュー調査への招待』世界思想社、2005年
- 『A Sociology of Work in Japan』Cambridge University Press, UK., 2005（Prof. Ross Mouerと共著）
- 『学生に語る ジャーナリストの仕事』（早稲田大学人間科学部河西ゼミ編）平原社、2002年
- 『日本の労働社会学』早稲田大学出版部、2001年（新装版2003年）
- 『電産型賃金の世界』早稲田大学出版部、1999年（新装版2001年）

『大学教育春秋』 ノンブル社、1999年

『The Human Face of Industrial Conflict in Post-war Japan』 Kegan Paul International Ltd.,
U.K.,1998

『聞書 電産の群像』 平原社、1992年

『戦後史とライフヒストリー』 (編著) 日本評論社、1992年

『Enterprise Unionism in Japan』 Kegan Paul International Ltd., U.K., 1992

『大学生が書いた現代日本社会論』 (編著) 平原社、1991年

『新版 少数派労働組合運動論』 日本評論社、1990年

『企業別組合の理論』 日本評論社、1989年

『Japan im Umbruch』 Bund-Verlag, Germany,1986 (編著)

『戦後日本の争議と人間』 (編著) 日本評論社、1986年

『企業別組合の実態』 日本評論社、1981年

『少数派労働組合運動論』 海燕書房、1977年

労働社会学・資料シリーズ

シリーズ1 : 『最終講義・労働調査 40年の経験から』 (河西宏祐発行) 2013年12月31日

シリーズ2 : 『「全契約社員の正社員化」が意味するもの—広電型労働組合主義とは何か—』 (河西宏祐発行) 2013年12月31日

シリーズ3 : 『戦前期 東京電灯従業員組合の軌跡 (1925年～1940年)』 (河西宏祐発行) 2014年5月31日

シリーズ4 : 『電産労働史論—その志 (1945年～1956年)—』 (河西宏祐発行) 2014年5月31日

シリーズ5 : 『電産の青春—未熟にして高貴な輝きの瞬間 (1945年～1956年)—』 (河西宏祐発行) 2014年5月31日

シリーズ6 : 『電産資料 (中央本部・各地方本部) の収集・寄贈の記録』 (河西宏祐発行) 2014年6月30日

シリーズ7 : 『書簡集 (電産型賃金の形成・運用)』 (河西宏祐発行) 2014年6月30日

シリーズ8 : 『講演集・労働組合とは何か—広電型労働組合主義の源像を求めて—』 (河西宏祐発行) 2015年2月28日